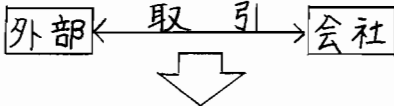


本支店会計

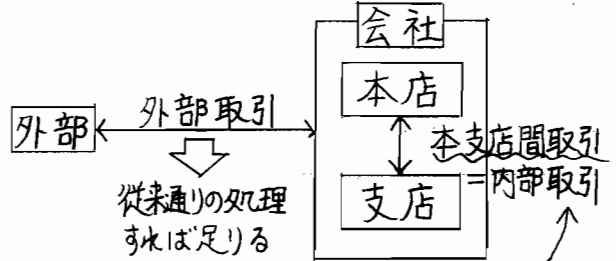
Point 1 本支店会計とは？

○ 個別・商品・帳簿のとき



どのように記録・集計・表示するかが問題となった。

○ 本支店会計では



従来通りの処理
すは足りる

この取引をどのように処理するかがポイント

Point 2 支店を独立した会計単位とするか否か？

◎ Yes: 支店の独自の帳簿に基づいて、支店の独自の業績評価を行う。

(帳簿は複数: 支店独立会計制度)

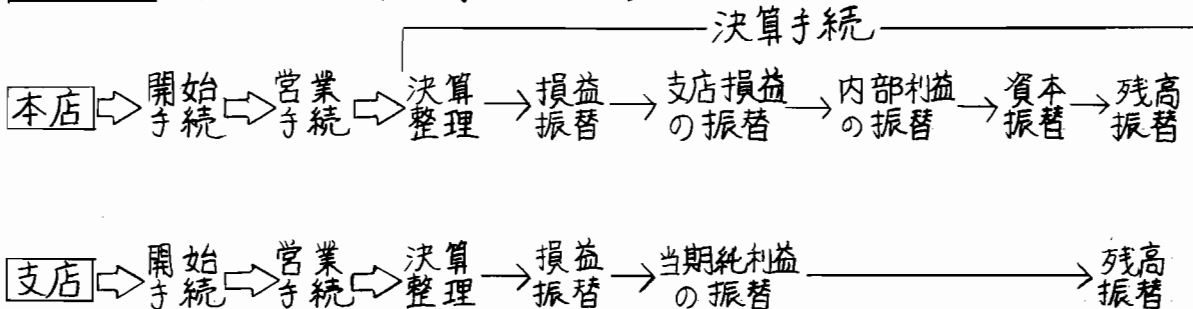
狭義の本支店会計

X No: 支店は帳簿を作成せず、本店の帳簿に支店の取引を記録して支店独自の業績評価は行わない。

(帳簿は1つ: 本店集中会計制度)

広義の本支店会計に含まれる

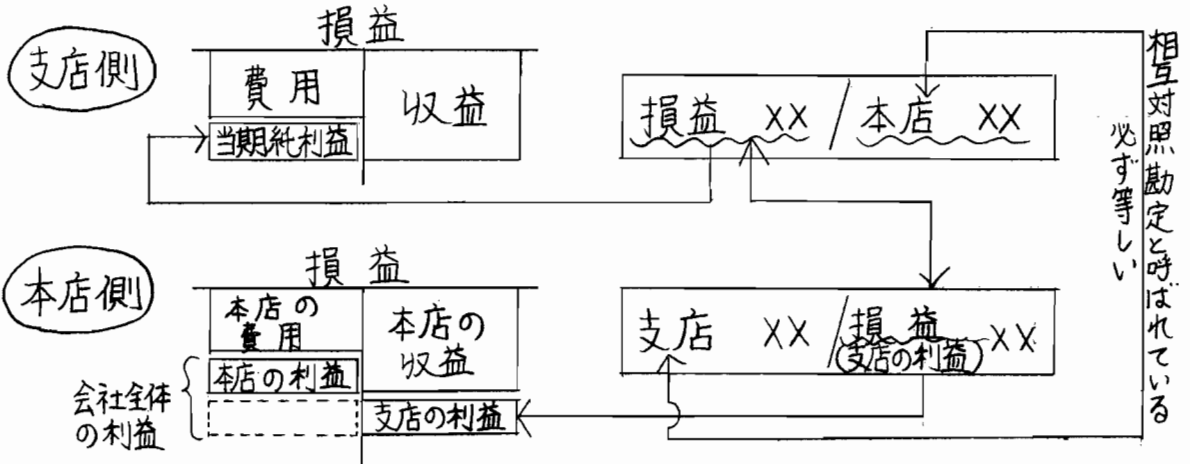
Point 3 本支店会計の簿記一巡の流れ



コース名	ゼ口TV	コース
科目名	簿記	
回数		回

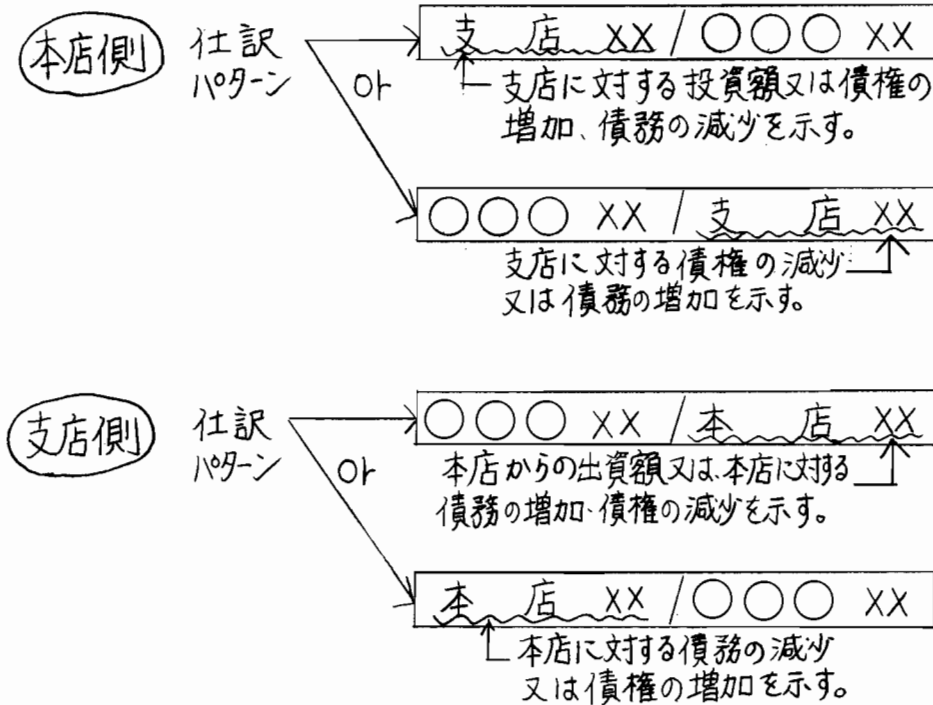
9	枚中	2	枚目
サイン	井川		

Point4 支店損益の振替の意味



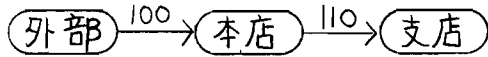
Point5 本支店間取引

1. 支店勘定と本店勘定



コース名	ゼ口TV	コース
科目名	簿記	
回数		回

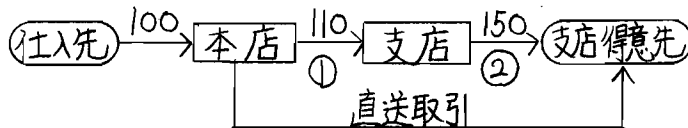
2. 商品の振替取引 … 計算価格法のケース (一番出題されている90%以上)



本店側: 支店 110 / 支店売上 110

支店側: 本店仕入 110 / 本店 110

3. 他店得意先への直送取引



本店側: 支店 110 / 支店売上 110

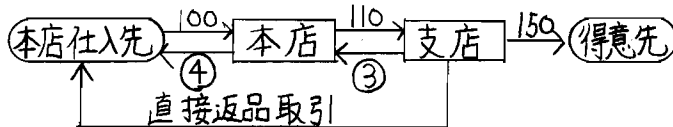
支店側: ① 本店仕入 110 / 本店 110

② 売掛金 150 / 売上 150
忘れないように!

本支店間取引

外部取引

4. 他店仕入先への直接返品取引



支店側: 本店 110 / 本店仕入 110

本店側: ③ 支店売上 110 / 支店 110

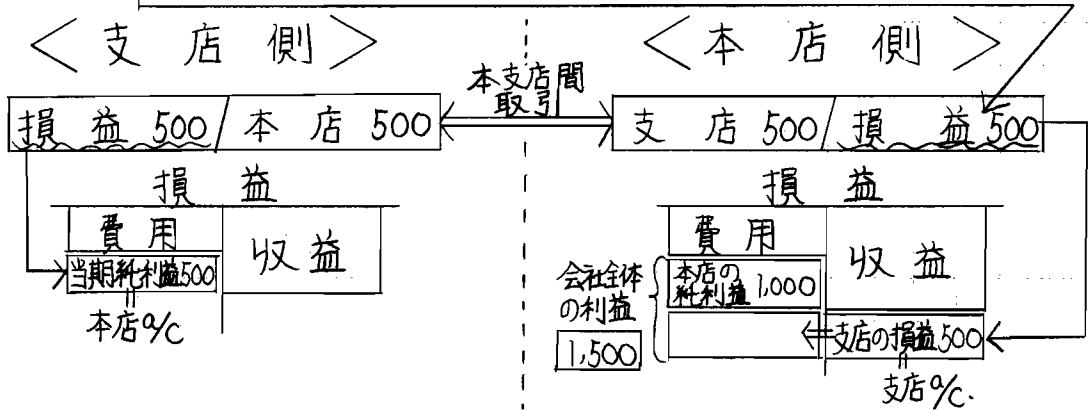
④ 買掛金 100 / 仕入 100
忘れないように!

本支店間取引

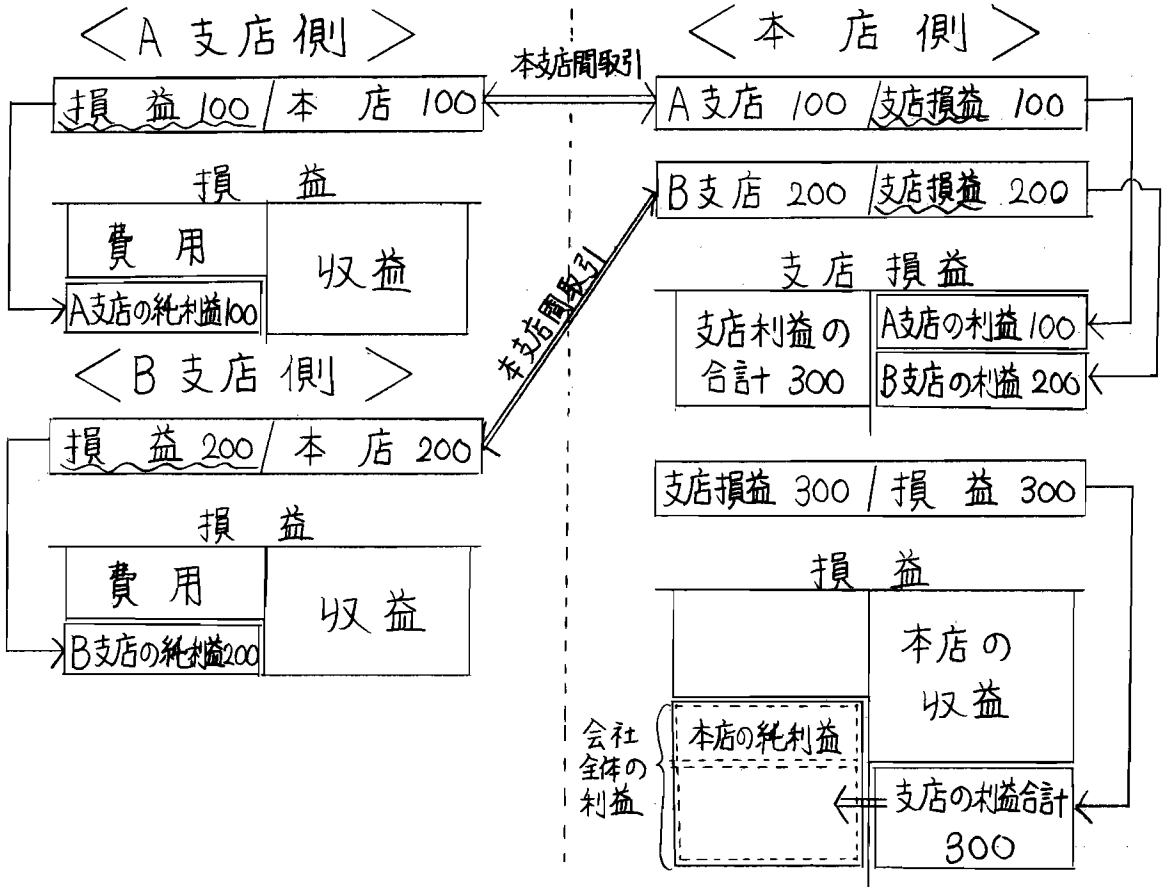
外部取引

5. 支店純損益の振替取引

① 直接振替法 (支店損益勘定を設定しない方法)



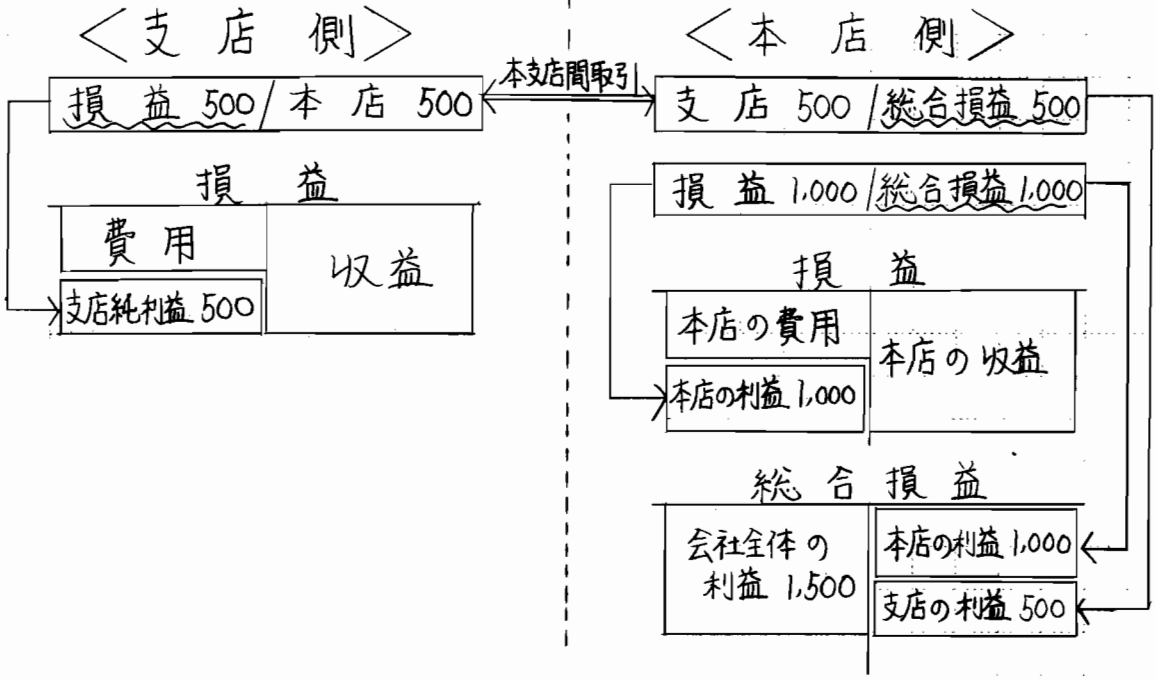
② 間接振替法 (支店損益勘定を設定する方法)



コース名	ゼロTV	コース
科目名	簿記	
回数		回

9	枚中	5	枚目
サイン		井川	

③ 総合損益%を設定する方法



コース名	セ" □ TV	コース
科目名	簿記	
回数	1	回

9	枚中	6	枚目
サイン	井川		

Point 6 未達取引

1. 未達取引とは

取引	本店	支店
未達取引	記帳済 未記帳	未記帳 記帳済
既達取引	記帳済	記帳済
簿外取引	未記帳	未記帳

2. 未達取引となりうる本支店間取引

本支店間取引のうち営業取引, したがって支店損益の振替取引は未達取引とはならない。

3. 未達取引の記帳方法 (帳簿上の処理方法) ↔ 精算表上の処理

- ① **決算日記帳法** … 未達取引を決算整理取引として処理する。
- ② **実際到着日記帳法** … あくまでも期中取引(翌期)として処理する方法

4. 決算日記帳法

当期の決算整理の1つとして記帳される。したがって、合併精算表において、後T/Bの数値は、この未達取引を組み込んだ数値となっており、照合%は常に一致する。

5. 実際到着日記帳法

翌期の営業取引の1つとして帳簿に記帳される。したがって合併精算表において、後T/Bの数値はこの未達取引を組み込んでいない数値となっており、照合%は通常不一致である。
そこで、一致させるために合併精算表上で合併手続の一環として、未達取引の処理を行うのである。

コース名	ゼ" □ TV	コース
科目名	簿記	
回数	1	回

9	枚中	7	枚目
サイン		#111	

Point up lesson 3 の解説

設問1 決算日記帳法

- ① 未達取引を決算整理事項として処理する。
- ② 売上原価の計算について

外部から仕入れた商品であろうと、本店から振替えられた商品であろうと売上原価を計算するときには、必ず本店仕入%は用いず、仕入%で行う。
(∵) 併合手続の1つである内部取引高の相殺手続がうまくできない。

①例

本店 $\xrightarrow{10\% \text{増で振替}}$ 支店

	本店	支店
期首商品	0	0
仕入	100	80
合計	100	80
期末商品	0	0
売上原価	100	80
支店売上	110	

本店仕入分: 33, 110, 143, Δ44, 99
外部仕入分: 0, 80, 80, 0, 80

内部取引高: 110 (本店) → 110 (支店)

等しくないため相殺できない。
 $179 - 110 + 100 = 169$

そこで

	本店	支店	収益 ⊖ / ⊕	費用 ⊕ / ⊖
支店売上	110 ←			
期首商品		+33	繰延内部利益 3 / 仕入 3	
仕入		80		期首商品棚卸高 (= 期首商品棚卸高の数値を減算した)
合計		113		
期末商品		Δ44	仕入 4 / 繰延内部利益 4	期末商品棚卸高
売上原価		69		
本店仕入		>110		

相殺可能

外部公表用の売上原価

$$= 69 - 3 + 4 + 100 = 170$$

支店の 期首 期末 本店の
売上原価 内部利益 内部利益 外部仕入

コース名	セ" □ IV コース
科目名	簿記
回数	1 回

講義録

9 校中	8 校目
サイン	井川

③ B/S繰越商品の額 $\frac{\text{本店分}}{150} - \frac{\text{支店分}}{(100+40)} = 140$
繰分

⑧ 支店%と本店%の後1/3の金額

支店		本店	
前1/3 253	未① 10	未② 30	前1/3 208
未③ 15	未② 20		未① 40
残高 238	← 必ず一致する →	残高 238	未③ 20

なお、次期繰越高は $238 + 87 = 325$
後の残高 支店損益

設問3 実際到着日記帳法

① 未達取引

決算整理事項としてではなく、合併手続の一還として処理するため
 決算整理仕訳の中に入らない。

② 売上原価の計算 … 考え方は決算日記帳法と全く同じ。

③ B/S繰越商品の金額 $\frac{\text{本店}}{150} - \frac{\text{支店}}{100 \text{のみ}} \leftarrow \text{未達40を入れてはいけない!}$

④ 支店%と本店%の後1/3の金額

支店		本店	
前1/3 253	← 不一致 →	前1/3 208	← 不一致 →
後1/3 253		後1/3 208	
+87		+87	
= 340 次繰越		= 295 次繰越	

(∵) 未達取引を記入していないから

そこで、相殺可能となるように、合併手続の一還として、合併
 精算表上で未達取引の処理を行うのである。

コース名	七"口TV	コース
科目名	簿記	
回数	1	回

講義録

9	枚中	9	枚目
サイン		井川	

支店		本店	
①帳後 253	①未 10	①未 30	①帳後 208
②未 15	②未 20		②未 40
③未 238	←	→	③未 20
	w/s上 238		

w/s上では必ず一致する。

—以上—